

均衡の原理

勝圭央

銀行とコンビニの近くに薬局が建っている

紅白の看板に頭文字がVで何かと縁起がよい

昭和アニメみたいだと思ふなか、わたしの足下で床が過ぎていく

正方形に焼けた陶土の白さは汚れを知らない

それに押し上げられている陳列棚も同じだ

着飾り装い、見栄を張っている

でも

内に並べられた商品たちは違うだろう

彼らは知っている

自分たちを作った胎盤と、揺れる結合

そこにある、触れられない正の裏側を

軽視がツルを巻き

あるべきものはなおざりで

蔑視に抵抗のない

必要だからと許されてしまった質量を

極彩のタトゥーを染み込ませても、整形外科に頼っても

背中の遠くは変わらない

振り返ってみたら

彼らと床と棚に違いなんてなかった

言ってしまうば、私たちとも離れていない

生み出され、世界でのかたちを与えられて

そしてその内側を知っている

だから本当は白じゃなくてグレー

懐かしいね、と尊ぶ心

私たちは、同じ古い均衡に沈む